

# あつみ 幼稚園 通信

2021

vol.37

企画・編集：(株)ASO



“英語であそぶ”って  
おもしろい!

What is the  
weather today?

英語とふれあう楽しい  
体験を大事にしたい

英語  
あそび

# ENGLISH TIME!



How old are you?

I am five years old!



ネイティブの先生の発音をよく聞いて、マネっこしたり、質問に答えたり…。

# 楽しく遊ぶうちに、英語がだんだん耳に慣れていく。外国人と日本人のペアレッスンだから、安心だね。

あつみの英語あそびは、外国人と日本人講師がペアになって進めます。気さくで優しいような2人の先生は息もぴったり。今回は、年長・年中組の楽しい英語あそびのようすをお届けしましょう。ダスティン先生とミク先生がお部屋にやってきました。Good Morning！

レポーター あきもとさちこ



年中・年長さんの

## 英語あそび



Today is sunny (晴れのポーズ)

### 「今日は何曜日?」「これはなにかな?」先生とのやりとりが楽しい~♪



はじめに取り出したのは手作りのカレンダー。Sunday、Monday、Tuesday、…と、ダスティン先生の声に続いて子どもたちが発音します。`Today is… (今日は何曜日?)、続いて“tomorrow is…”の質問にまごまごしていると、「tomorrowっていつのこと?」とミク先生が助け舟。子どもからすぐに「あしたのこと!」と声が上がって答えにつながりました。ネイティブスピーカーに集中できるように、日本人スタッフが必要な時に言葉かけしてくれるので、レッスンはスムーズに進みます。

### “Do you like OO?”

### 「好きですか?嫌いですか?」の「O×ゲーム」



ネイティブの先生の発音をしっかりと聞かないと答えられないのがQ&Aです。「海の生き物カード」を使って「O×」で答えるゲームをしました。マグロのお魚カードで「好き」「嫌い」を聞くと、「これおいしいよ」と言いながら「O」に移動する子どもたち。「お寿司屋さんじゃないよ。カワイイ、こわいとかの好き、嫌いで選んでね」とミク先生も苦笑い。子どもの考えることって面白いですね。「O」は“Yes I do!”, 「×」は“No I don't!»と元気に答えていました。



Today is ...



「クラゲ」は、好き?嫌い?





“What’s your name ? ” “ My name is OO”

「お名前は？」と聞かれて、ちゃんとと言えるかな？



英語で「お名前は？」と聞かれたら、ちゃんと答えられるかな。サークルになり“My name is OO”と順番に答えていきます。「ソウタ」「ミツキ」「セイヤ」…、年長さんはスラスラと言えました。さすがです。年中ではもじもじする子もいましたが、先生に励まされ全員言うことができました。自分のことを英語で言うってちょっとドキドキですね。30分のレッスンは、あっという間に終わりました。こうして外国人の先生と英語で楽しく遊んだ経験は、英語への興味を抱くよいきっかけになりそう。

楽しかったね～ Goodbye !



I like a crab

My name is ...



ミク先生

ダスティン先生

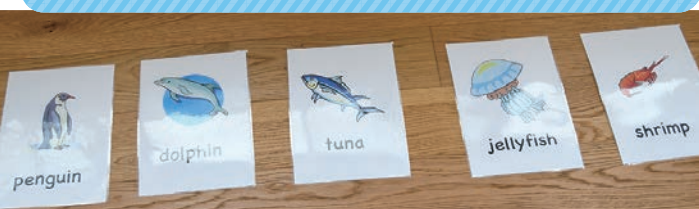
### バナナキッズの先生たち

### なぜ、外国人と日本人のペアティーチングなのですか？

まずは英語を耳に入れて理解できない時は、直訳ではなくヒントを出して子ども達に考えてもらいます。そしてネイティブの先生に集中できるよう声かけするのが日本人スタッフの役割です。日本語の通じる先生がいると子どもは安心するんですね。ネイティブの先生もレッスンに専念できます。

### あつみの子どもたちは、どうですか？

話を聴く姿勢ができていますので、学ぶのも早いですね。一度やったことはよく覚えています。反応がいいので、私たちも楽しんでやらせてもらっています。来年度は課外教室の開設を計画だそうです。こちらも楽しみです。



### 副園長先生のお話



### 『英語あそび』は英語を学ぶほんの入り口ですが…

ネイティブの先生による「英語あそび」は、英語に親しみながら、外国人とのふれ合いもできます。英語を学ぶという点ではほんの入り口ですが、英語の先生と遊ぶ楽しさ、ことばが伝わる嬉しさ、異文化とのふれあいを体験しています。早口言葉や手話、寿限無などのことば遊び、絵本など、本園で力を入れている『言葉の教育』の一つと考えています。

What color is this ?



Hello!



楽しく笑えば  
身体すくすく、心のびのび！

## 「笑顔の子カラ」で親子の幸せ力を高めよう。

笑いで重い病を治した、笑うことで脳機能が活性化したなど、近年、「笑い」の効能が次々と明らかになっています。そこで、今回は「笑い」が心身に与える影響について研究をされている先生にインタビュー。

子育てファミリーにもうれしいお話がいっぱいですよ。

お話／健康科学大学 准教授 瀧口 綾先生



### 親が笑うと子どもの身体にプラスの効果が

「よく笑う母親の母乳を飲んでいる赤ちゃんは、風邪をひきにくい」という話をご存知ですか？ ママがよく笑うと、母乳中のガンマグロブリンAという免疫物質がふえるため、赤ちゃんが風邪をひきにくくなるのだそうです。

また、「ママやパパが漫才を聞きながら（笑いながら）ミルクを与えたら、赤ちゃんのダニアレルギー反応が減少した」という研究報告も。親が楽しく笑うことが子どもの健康によい効果を与えているなんて、うれしい驚きですね。

### 親の笑顔は子どもの「安心感」や「自信」も育てます

大好きなママやパパがニコッと笑ってくれたら、子どもはそれだけで安心します。また、親の笑顔は、「私はあなたをそのままを受け入れているよ」というメッセージにもなります。それは子どもの自信や自己肯定感にもつながっていきます。

「笑いは副作用のない薬」と言われますが、ママやパパの笑顔は子どもの身体だけでなく、子どもの心のすこやかな育ちにも大いに貢献しているといえます。



### ママが笑えば子どもも笑う。 「笑顔のミラー効果」に注目！

「笑顔」にはすばらしい効果がたくさんありますが、さらにステキなのは「笑顔は伝染する」ということ。「笑顔のミラー効果」といって、自分が笑うとミラー（鏡）のように相手も笑顔になるということがわかっています。ニコニコ笑顔の人がいると、周り

の人もなんとなく笑顔になるということは確かにありますよね。親が子どもに笑いかければ、子どもも笑顔になる。それを見た親はまた笑顔になる…。そんなふうに笑顔がループしていく関係を作っていけたらいいですね。

### 「作り笑顔」も効果アリ！ 笑いと脳のふしぎな関係



笑いに関して、ちょっと面白い話もあります。口角を上げて笑顔を作ると、脳が「あ、笑ったね。楽しいんだね」と勘違いして、セロトニンやドーパミン（幸せホルモン）を出してくれるのだとか。ですから、笑えないときもとりあえず口角を上げて「作り笑い」をしてみるといいそうです。気づいたら、ちょっと口角を上げてみる。「これで幸せホルモンが出たかも？」と思うと、それだけで少し気持ちが明るくなりそうですね。

#### 笑顔になれないときもある。そんなときは…

いつもニコニコ笑顔のママでいたいけど、そういう気分にはなれないときも。そんなときは無理に笑顔にならなくていい、と私は思います。

疲れたときは、「ママ疲れちゃった」「少し休んだら元気になるからね」と家族に伝えましょう。そういうママを見て、子どもは「疲れたら、疲れたって言っていいんだな」と学ぶことができます。笑うことに苦意意識がある方は、まず「感情を出す」ということを意識してみましょう。つらいときはつらいと言う、誰かに話を聞いてもらう、助けを求める。そんなふうに少しずつ自分の気持ちをゆるめていけたらいいですね。

いいね



実践編

### 親子で、今日からできる 笑顔をつやすアイデアあれこれ

#### ♥幸せ言葉をたくさん使おう！

「いいね！」「やったね！」「ラッキー！」「大丈夫！」など、いい言葉、ポジティブな言葉を意識して使ってみましょう。

わが家では娘が幼いころ、何かいいことがあったら「ラッキー」と言い合う遊びを親子でしていました。「今日は散歩のとき、かわいいネコがいたよ、ラッキー！」など、ゲーム感覚で「いいこと探し」をしてみるのも楽しいもの。「幸せ言葉」を積極的に使えば、自然に笑顔も多くなりますよ。

#### ♥たくさんほめよう！

ほめられれば誰だってうれしいし、笑顔になりますよね。「できたね」「やったね」と言葉でほめてもいいし、ハイタッチや握手などのアクションでもOK。大切なのは「見てたよ！がんばってたね」というママの気持ちが子どもに伝わることです。

#### ♥表情遊びをしよう

「ママ！」って呼ばれたら、変顔をしてパッと振り向く。それだけで子どもはきっと大盛り上がり！表情遊びとしては「にらめっこ」や「顔じゃんけん」もありますね。思いきり顔の表情筋をほぐすと、笑顔も出やすくなりますよ。

#### ♥身体を動かして遊ぼう

身体を動かすと、自然に気持ちもほぐれて笑顔が出ます。外で遊べないときは、楽しい音楽に合わせて一緒に踊ったり、子どもが嫌がらなければ「くすぐりっこ」もいいですね。親も子も思いきり笑えて、スキンシップにもなります。



瀧口 綾 Aya Takiguchi

健康科学大学健康科学部福祉心理学科准教授。専門は発達心理学、臨床心理学。クリニックで発達障害の相談も行っている。笑うことが大好き！講演会などを通して笑顔や笑うことの大切さなどの普及に力を注いでいる。共著に『保育の心理学』（一藝社）ほか。

取材・文・中島恵理子